

その他の指標



[初診患者の紹介・逆紹介](#)



[カルテ開示件数](#)



[採用薬品数 ・ 新規採用薬品数 ・ ジェネリック割合](#)



[医薬品副作用被害救済申請数](#)



初診患者の紹介・逆紹介

当院の紹介件数は毎年増加傾向にあり、2018年
も5249件⇒5767件に増加しました。逆紹介(他
院からの紹介)では、2016年以降減少傾向にあり、
2018年は2803件⇒2633件に減少しました。

初診患者についてみると、紹介・逆紹介どちらも、
2018年は減少した2017年と大きくかわらない
割合となりました。

初診患者の紹介率と逆紹介率

分子	内、紹介(逆紹介)が行われた患者
分母	当月初診算定患者

表示: 年間合計



新規患者については、紹介率が2017年以降微増傾向にあり、2018年の逆紹介率は減少した2017年と大きく変化のない値となりました。

新規患者の紹介率と逆紹介率

分子	内、紹介(逆紹介)が行われた患者
分母	当月新規患者

表示: 年間合計

[その他の指標 TOP](#)

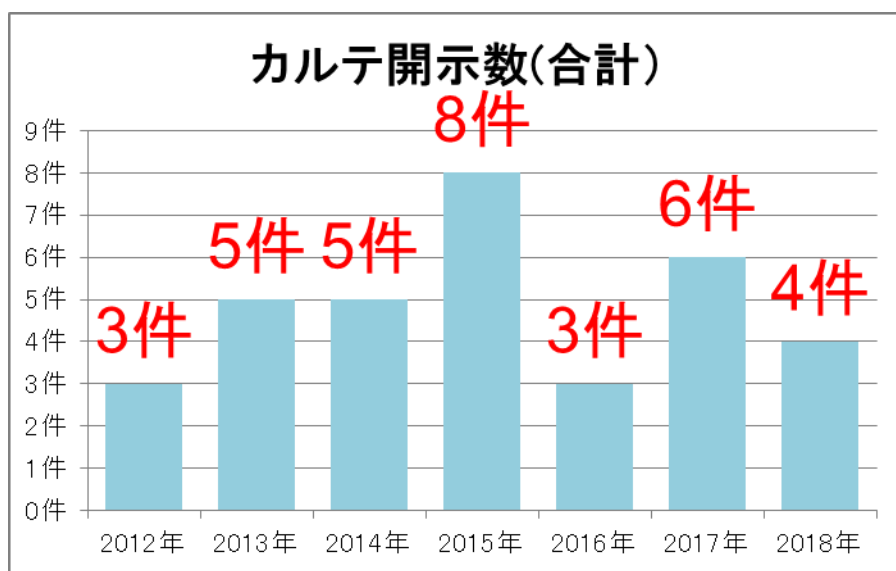


カルテ開示件数

2018年は増加した2017年から減少し4件となりました。

2018年のカルテ開示の傾向として、B型肝炎訴訟以外に民間保険の審査の為の開示が半数以上の3件となりました。今後も民間保険の審査に関する開示が増加する事が予測されます。

みどり病院では遠方の方からの開示請求に対しては配送での対応など、より利用しやすいサービスの工夫を行っております。





院内採用薬品数と新規採用薬品数

医薬品を有効・安全に使用する為、科学的視点から評価し、必要な医薬品を選定できているか？を評価する指標です。

採用薬および新薬を定期評価する事によって、採用薬品数を適正に抑え、有効で安全かつ安価な医薬品の提供を実現します。

みどり病院では、半期毎の岐阜民医連県連薬事委員会で、当院での使用実績や患者への効果検証を元に疾患別・薬効群別採用薬の見直しを行っております。

採用薬は毎年減少させておりますが、同規模の他病院と比較すると多い薬品数であり、更なる見直しが必要です。

2018年の院内採用内服薬は1060⇒946薬品と大幅に採用薬品数を減らしました。また新規採用薬品数も21⇒18に減少しており、絞り込み選定の取り組みが進みました。



[その他の指標 TOP](#)



医薬品副作用被害救済制度は、医薬品等を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による健康被害を受けた方に対して、医療費等の給付を行い、被害を受けた方の迅速な救済を図ることを目的として、昭和 55 年に創設された制度です。

当院では救済制度利用は 1987 年を初年に本年までで 2 例の死亡を含む 43 例を申請しており、内、毎年 1 件以上の申請を行っています（2018 年 1 件、申請率：100%）。全国全医療機関の総申請数の総計が（760～800 未満/年）であることから考えると、病床数 99 床の当院の申請数は非常に高い件数です。

これは他院と比べて副作用発生割合が高いのではなく、積極的な救済制度利用を行う情報収集・申請支援体制が整っている事によるものと評価しています。

2018 年は申請件数は変わりませんでした。

医薬品副作用被害救済制度申請割合

分子	内、救済制度を申請した患者数
分母	医薬品の副作用によって入院または入院が延長した患者数

表示：年間合計

今後も、副作用の早期発見、重症化の未然防止の為に副作用事例・情報を収集し院内・系列診療所での情報共有に努めると共に、被害患者の救済の為に積極的に救済制度の利用をすすめていきます。

[その他の指標 TOP](#)



死亡退院件数と退院における割合



手洗いアルコール払い出し量と1患者当たりの使用量 (月平均)



手洗いアルコール洗剤払い出し量 (ml)

